

## 歴史の中の有馬温泉

田 辺 眞 人<sup>1)</sup>

### A History of Arima Spa

Makoto TANABE<sup>1)</sup>

#### 1. 日本三古湯の一つ

有馬温泉発見譚は、傷ついた三羽の鳥が水浴びしているのを見かけた大己貴命と少彦名命とが、鳥の傷がたちまち癒えるのを見て不思議に思い、その泉を調べたところ、強い薬効のある温泉であることを知り温泉を開いたという。多くの温泉同様、傷ついた動物を通じて知られたという伝説で、二柱の神の神性から有馬温泉の、山の中のいやしの湯という基本的性格がうかがえる。

有馬温泉は、『万葉集』や『古事記』『風土記』に描かれ、牟婁の湯と記された白浜温泉や、四国の道後温泉とともに日本三古湯とされる。最古の記録では 631 年以来、中大兄皇子の父・舒明天皇が二度、大化の政変の二年後の 647 年には孝徳天皇が二か月以上滞在されたといい、その時生まれたのでその皇子は有間皇子と名づけられたのだと伝えている。

#### 2. 中断と復興の歴史

この古くからの温泉場も歴史の中では幾度か、災害のために衰退したと伝えられている。奈良時代、土砂崩れで埋まってしまっていた有馬温泉を再興したのは僧・行基だとされている。農民のために昆陽池を築き昆陽寺のあたりにいた行基が、薬師如来のお告げで中断している温泉の再建を果たし、湯治の客の本尊として薬師如来像を刻み、今も有馬温泉の中心となっている温泉寺を開いたという。行基が木を切り出して湯舟を作った土地に湯槽谷の地名がついたとも伝えている。以後、多くの人々が訪れ、平安時代には、藤原道長や頼通も入湯した。院政期の実力者白河法皇や後白河法皇と建春門院も来訪した。

しかし、平安後期の承德年間（1097～1098）にも大雨による土砂崩れで湯口も埋もれて、温泉はこれから長く中断してしまった。九十年余り後の鎌倉時代の初め、吉野で修業をしていた仁西という僧が夢の中に現れた熊野権現のお告げで、有馬温泉の復興を命じられ、はるばるこの地によって

<sup>1)</sup> 園田学園女子大学名誉教授 〒665-0014 兵庫県宝塚市青葉台 1 丁目 11-15. <sup>1)</sup> Sonoda Women's University Professor Emeritus, Aobadai 1-11-15, Takaraduka, Hyogo Prefecture 665-0014, Japan.

来た。仁西は温泉復興と共に薬師如来を守る十二神将にちなんで、有馬に十二の宿坊を開設した。有馬に今もある十二の何々坊という旅館は、この宿坊をその起りとしているのである。仁西は温泉復興の時、有馬の東方の地で湯舟を作り、その地に船坂という地名が付いたとも伝えられている。ただ、この伝えと後白河法皇の来訪とは时期的に矛盾があるので、鎌倉初期に復興する前の中断は九十年もの長さではなく、短期間のことだったと思われる。

復興した有馬には、鎌倉初期には『新古今』の編者藤原定家や『愚管抄』の著者慈円、室町時代には浄土真宗中興の蓮如や足利十代將軍義植・十三代義輝と、そうそうたる来訪者があった。

このようないきさつから、行基と仁西は有馬中興の恩人として敬われ、今も毎年1月2日に二人の木造が温泉寺から本湯に迎えられて、湯を注ぐ入湯式が行われている。

### 3. 近世以降の有馬

豊臣秀吉は少なくとも九回の滞在が記録されている。秀吉が初めて湯治に来たはっきりとした記録は天正11年(1583)8月で、以後翌年の8月に一度、翌々年には1月にねね夫人を伴い、8月にもう一度訪れているから、よほど有馬が気に入ったのであろう。最初のおおびらな湯治が、織田信長が暗殺された本能寺の変の翌年というのは、秀吉がそれまで信長に気を遣っていたようで興味深い。その後の秀吉は、天正18年、19年、文禄2年(1593)と一度ずつ訪れ、同3年には二度来訪し、滞在のための館も建てた。しかし、文禄5年(1596)京阪神地方は大地震に襲われ、有馬温泉は地形が変わってしまうほどのありさまで、多くの建物が倒壊し、泉源の温度が上がって入浴不能になるなどの大被害を受けた。これから2年後に亡くなるまで、秀吉は有馬の復興を後援したという。

『摂津名所図会』は秀吉が天正17年にも有馬を訪れたと記し、その時温泉寺奥の院の南西で、手にした杖で地面を突っついて「もし、ここにも温泉が湧いたら、外国までも自分の醒下に入るだろう」とつぶやいた。すると、そこから湯がとうとうと湧き出でて「豊太閣願いの出で湯」と呼ばれたと記している。

江戸時代になると秀吉ゆかりの建物は破却され、その跡に幕府は寺院などを建設した。しかし、土地では、念仏寺の地に秀吉夫妻の御殿の跡が、極楽寺の一画に「願いの湯」があったと伝えて来たが、先年の兵庫県南部地震の後の復旧工事に際して、極楽寺本堂脇の地下から岩風呂・蒸し楓呂・廃園の址などが発掘され、ここが秀吉の湯殿の跡だと考えられて、そこに太閣の湯殿館という資料館が開設された。

江戸時代には林羅山が有馬を草津や下呂温泉とともに日本の三名湯と称し、「温泉番付」などでも東の草津と並ぶ大関温泉として喧伝され、温泉街は繁栄した。明治以降は鉄道によって遠隔地からの観光客も訪れるようになった。

そのような有馬温泉の歴史について考えてみたい。

#### 日本史の中の有馬温泉への主な来湯者など

##### 1. 古代

(1) 伝説：三羽の鳥の伝説：おおなむきのみこと すくひこなのみこと大己貴命・少彦名命（山の中の癒やしの湯）

(2) 最古の記録：塩じよめいの湯（『摂津国風土記』）、有馬山（『万葉集』）

631年、638年：舒明天皇が二度

647年：孝徳天皇が二か月（『日本書紀』）

(3) 奈良時代

749 年：行基による再興（<sup>こんよう</sup>昆陽池設置と昆陽寺建立，土砂崩れからの復興，薬師如来像を刻み温泉寺開山，湯槽谷（山））

## (4) 平安時代

『延喜式』<sup>ゆの</sup>湯泉神社・<sup>ありま</sup>有間神社，近くに<sup>はたのしょう</sup>八多庄・<sup>やまぐちのしょう</sup>山口庄，<sup>ただのしょう</sup>清和源氏の多田庄

1024 年：藤原道長

1042 年：藤原頼通

1128 年：白河法皇

1163 年：心西入道？

1176 年：後白河法皇と建春門院

1180 年：平氏の福原庄，平清盛の<sup>おおわだのとまり</sup>大輪田泊改修・遷都

1184 年：一の谷の戦い

1190 年：藤原俊成

2. 中世（<sup>しょうとく</sup>承德年間（1097～98），土砂崩れで中断）

## (1) 鎌倉時代（荘園による地域開発すすむ）

吉野の修業僧・仁西，夢（熊野権現のお告げ）で有馬温泉の復興，十二神将にちなみ十二の宿坊，船坂

定家，慈円らの入湯

1203 年：藤原定家

1231 年：西園寺公経

1281 年：叡尊

1371 年：赤松則祐

1381 年：義堂周信

1385 年：絶海中津

1385 年：足利義満

1482 年：飯尾宗祇

## (2) 室町時代

1483 年：蓮如

1491 年：宗祇・肖柏・宗長

1517 年：足利義植・細川高国・赤松義村

1564 年：足利義輝

## 3. 近世

## (1) 安土挑山時代

豊臣秀吉と有馬，1583（天正 11 年）～：豊臣秀吉の九回以上，秀吉夫妻の御殿。

1579 年，1582 年，1583 年～：豊臣秀長・小早川隆景・豊臣秀長・細川藤孝

1595 年：徳川秀忠

1596 年（文禄 5 年）：大地震（泉源の温度変化，秀吉は復興に尽力）

## (2) 江戸時代（近在随一の観光地，旅人，物産）

秀吉ゆかりの建物跡に寺院などを建設（念仏寺の地-御殿跡，極楽寺に「願いの湯」）

1621 年：林 羅山

旅行ブーム

## 4. 近代

(1) 市町村制 (1889年 (明治22年)) ← 1879年 (明治12年) 郡区町村編成法

(2) 1874年 (明治7年) 官営鉄道の開通

1893年 (明治26年) : 阪鶴鉄道認可 (—1932年福知山)

1915年 (大正4年) : 有馬鉄道

1928年 (昭和3年) : 神戸有馬電気鉄道 (1940年国有に)

1960年 (昭和35年) : 大阪いでて右左菜種ならざる畑もなし 神崎川の流のみ浅黄にゆく  
ぞ美しき

1961年 (昭和36年) : 神崎よりは乗り換えて湯あみに登有馬山 池田伊丹と名に聞きし酒の  
産地も通るなり

1962年 (昭和37年) : 神戸は五港の一つにて集まる汽船の数々は 海の西より東より瀬戸内  
通いも混りたり